

## 日本音楽知覚認知学会 平成 27 年 (2015 年) 度 第 1 回理事会議事録

日時：平成 27 年 (2015 年) 6 月 6 日 (土曜) 午前 10 時～12 時 40 分

開催場所：北海道教育大学 札幌駅前サテライト Hue Pocket

出席者 (敬称略・順不同)：星野悦子、小川容子、山崎晃男、荒川恵子、大串健吾、亀川徹、桑野園子、佐々木隆之、菅千索、谷口高士、津崎実、中島祥好、中田隆行、羽藤律、三浦雅展、森下修次、吉野 巖

オブザーバー：饗庭絵里子、安井希子、生駒忍、西村明、小幡哲史

報告.

### 1、平成 26 年度決算報告

高橋範行常任理事 (欠席) に代わって、安井希子幹事 (事務局担当) が昨年度の決算を報告した。

### 2、平成 26 年度監査結果

大浦容子監査 (欠席) より送られた「適正な予算執行の処理がなされていることを確認した」旨の文書を、星野悦子会長が代読した。

### 3、会員数状況報告

安井希子幹事 (事務局担当) から、本年度の会員の総数は 269 名で、内訳は名誉会員 3 名、正会員 246 名、学生会員 20 名であることが報告された。

### 4、平成 26 年度事業報告

(1) 研究発表会開催について、昨年春季研究発表会は、5 月 24 日、25 日に愛知県立大学 (世話役：高橋範行先生) にて、また秋季研究発表会は、11 月 29 日、30 日に金沢工業大学 (世話役：江村伯夫先生) にて開催されたことが、星野悦子会長から報告された。

(2) 学会賞の授与について、荒川恵子常任理事 (学会賞担当) から、春季研究発表会での研究選奨授賞者は 1 名で、大澤智恵氏 (京都市立芸術大学音楽学部。題目：「ピアノ鍵盤の空間的記憶の正確性分布における左右差と学習効果」、連名者；津崎実・木下博の両氏) であり、秋季は該当者なしであったことが報告された。

### 5、平成 27 年度春季研究発表会 研究選奨選考委員の委嘱について

荒川恵子常任理事 (学会賞担当) から、平成 27 年度春季研究発表会の研究選奨選考委員が 4 名委嘱された旨が報告された。

### 6、学会誌の「論文賞」選考準備について

荒川恵子常任理事 (学会賞担当) から、『音楽知覚認知研究』第 19 巻 (第 1 号)、同巻 (第 2 号)、第 20 巻 (第 1 号)、同巻 (第 2 号) が刊行され、論文賞の対象となる 3 件の原著論文に対する審査を選考委員 5 名に委嘱した旨が報告された。

### 7、学会メーリングリストの外部サーバーへの移行について

三浦雅展常任理事 (学会アーカイブ担当・学会 HP 担当) から、すでに完了した学会 HP に加えて、学会メーリングリストも移転完了したことが報告された。

### 8、学会アーカイブの web 掲載状況について

桑野園子理事 (学会アーカイブ担当チーフ) から、学会サイトのアーカイブに随時掲載が進められている資料の内容と掲載の進展状況が報告された。順調に掲載し終えたものと今後待たれるものと

があり、漸次進展を目指すことを確認した。

#### 9、『音楽知覚認知研究』の原著論文バックナンバー電子化の進捗状況について

星野悦子会長から、学会誌の第1巻から第6巻第2号まで、全部で9巻の中に掲載された原著論文20件のデジタル化の進展状況が報告された。スキャン、OCRは16件が終わったが、他の補正作業も含め完了したのは7件である。残る13件の作業は7月初旬までには完了予定である。

#### 10、『音楽知覚認知研究』の発刊と今後の予定について

津崎実常任理事（学会誌編集委員長）から、第21巻第1号の初校が上がってきた段階であり、7月には刊行される見通しであることが報告された。

#### 11、学会業務に関連した旅費の申請について

前回の理事会で検討されおおむね了承されたが、申請書の用紙の文言等に細かい修正を求められていた学会業務関連旅費の「旅行申請・報告書」（修正案）について、メール審議での異存はなく、この書式で確定する旨、星野悦子会長から報告された。

#### 12、演奏科学国際シンポジウム（ISPS）日本開催準備について

三浦雅展常任理事（ISPS大会委員長）から、ISPS国際シンポジウムの本年9月開催（於：龍谷大学）について現在120名の参加登録があり、準備が順調に進んでいること。本学会員の参加をさらに呼びかけたい、との報告があった。

#### 13、平成26年度第2回理事会議事録の修正

星野悦子会長より、昨年度第2回の理事会議事録（修正案）が示され、内容確認の上で確定したい旨の報告提案があり、その内容で了承・確定された。

#### 14、次期役員選挙の開票結果について

森下修次理事（選挙管理委員会委員長）から、任期満了に伴って行われた次期学会役員選挙結果が報告された。去る5月17日（於：奈良教育大）に開票が行われ、有効投票数89票。全ての候補者が信任された旨が報告された。

### 議題

#### 1、国際活動支援基金の運用内規について

前回の平成26年度第2回理事会において本学会の国際活動支援基金（以降、基金）の運用内規の審議が開始され、その後の修正案（昨年12月15日）がメール審議を経て検討された。その結果を受けて第2次修正案が星野悦子会長から今回の理事会に提案された。基金を学会の外にあるものとし、国際活動に際して「貸出し」をして運用するのか、それとも本学会主催（あるいは共催）の国際的学会・活動には「支援金」として拠出するのかで議論が分かれた。統一見解としては、内規の「事業」の項目にある「基金の定義」について、本学会の主催・共催する国際会議へは支出する（ただし、半分以上の返還を努力する）とし、その他の団体等による国際学術活動へは「貸し出す」（全額返還）と分けて、再度定義し直すことで了承された。

#### 2、APSCOM 2017の日本開催準備について

中島祥好常任理事（国際渉外担当）と荒川恵子常任理事（APSCOM大会委員長）から、来年日本で開催することになっているAPSCOM国際会議の準備状況について報告提案がなされ了承された。提案内容は以下の通りである：●開催日程の提案 2017年（平成29年）9月1日（金）～3日（日）。

音知会の春季または秋季研究発表会とジョイントで行うことで了承された。その具体的方法は継続審議。●開催場所 ①京都女子大学、および②京都国立博物館 平成知新館ホール。●大会テーマ（検討中）●参加予定人数 約 60 名。●暫定予算案と大まかなスケジュールについても提案・了承された。●APSCOM 組織委員会の構成は以下の通り：[プログラム委員会] 委員長 阿部純一氏（北海道大学名誉教授）、副委員長 中島祥好理事、日本以外の APSCOM 構成国（韓国、中国、オーストラリア）からの委員も委嘱予定（検討中）。[組織委員会] 委員長 荒川恵子理事、ほか 12 名の理事（現時点）である。

### 3、研究発表会の参加費用の値下げについて（継続審議）

星野悦子会長より、前回理事会で検討するも継続審議となった研究発表会参加費用の値下げについて、再度の提案がなされ審議された。その結果、学生会員は現在の 2,000 円から 1,000 円に、学生非会員は現在の 3,000 円から 2,000 円に新たに設定することで了承された。ただし、研究発表会における「学生」とは、大学院生（修士課程、および博士課程）を含めた意味で用いることが了承された。

### 4、平成 27 年度予算案について

安井希子幹事（事務局担当）より、今年平成 27 年度の予算案が提案され、了承された。

### 5、会費未納者の扱いについて

安井希子幹事（事務局担当）より、平成 26 年度第 1 階理事会で会費未納 4 年以上の報告された会員のうち、再請求後の納付がなかった 17 名（正会員 8 名、学生会員 9 名）を、平成 27 年 3 月末日で除名とした旨、報告された。現時点で会費未納が 3 年以上の会員が 15 名おり、このままでは平成 28 年 3 月末で除名となるので、知り合いが含まれていれば周知させることを申し合わせた。

### 6、研究発表会から学会誌の寄書・原著論文へ推薦する制度（承認済み）の依頼文（案）について

前回の理事会にて津崎実常任理事（学会誌編集委員長）から、学会誌の投稿件数の底上げを図り発行ペースの安定にも寄与する制度として、推薦投稿制度の提案がなされ了承された。研究発表会における発表を対象に、論文・寄書として投稿すれば採択の可能性が高いものを、理事が編集部へ推薦し、編集部から発表者に投稿を呼びかける制度であり、今回はその依頼文が津崎理事より提案され了承された。

### 7、Musicae Scientiae アブスト翻訳の担当交代について

三浦雅展常任理事より、欧州音楽知覚認知学会 (ESCOM) の機関誌である Musicae Scientiae の掲載論文のアブストラクト翻訳の担当者を務めてきたが、高橋範行理事と交代したい旨の提案があり、了承された。

### 8、次回秋季研究発表会について

谷口高士常任理事（研究発表会担当）より、次回の平成 27 年度秋季研究発表会はヤマハ音楽振興会本部（東京都目黒区、世話役：小川純一様）で 12 月 5 日、6 日に開催されることが報告され、了承された。

### 9、日本音楽知覚認知学会 創立 30 周年（2018 年）の記念イベントについて

星野悦子会長より、3 年後（2018 年）には本学会の創立 30 周年を迎えることとなり、その記念行事の一環として学会企画の本の出版が提案され、継続審議となった。

### 10、その他 なし

以上